

『禅のこころ-曹洞宗-』

しよぎょうむじょう 諸行無常

平成29年8月第3週放送

もろもろ
諸々の作られたものは、移り変わり変化しないものはない。お釈迦さまの四つの大切な教えの一番初めの教えです。仏教の入口といってもいいでしょう。

多くは身近な人の死に立ち会うことで、自分のいのちも限りあるものであること
めざ みずか あしもと
に目覚め、自らが歩んできた足元を見つめて振り返り、お釈迦さまの示された生き方を学ぼうとするのです。毎日テレビで見ていた人が若くして亡くなられるのを知って涙するのも、大切なご縁の一つでしょう。

むじょう かん
“無常を觀ぜよ”とはいいながら、さらに、いのちに限りがあるということは、誰もがわかっていながら目の前から遠ざけたいことの一つです。半年あるいは数年先の予定を立てたり、何週間も先に人と会う約束をしたりするのはその証^{あかし}でしょう。

手紙の挨拶文に、「ご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます」や「くれぐれもお体をご自愛下さい」などを書いたりするのは、「あなた様は今、生きていらっしゃいますでしょうか?」「次にお会いするまで元気で生きていて下さいね」という、遠回しに思いやりの気持ちを伝えているかのようです。この言葉の裏には、「あの人が末^{すえなが}永く元気で生きていてくれれば、私も多分一緒の世界で生きていられるだろう、是非そうありたいものだ」という、自分への祈りにも似た切実な願いが込められているように思えてなりません。

そうなのです。諸行無常は皆さん分っているのです。分かりにくいのは、どうやって生きたら、死に対する怖さや恐ろしさに惑わされないで、心安らかに日送りができるだろうかということなのです。

みか のべ
今では見掛けることが少なくなりましたが、葬儀の後の野辺の送りに、「諸行無常(しよぎょうむじょう)」「是生滅法(ぜしょうめつぽう)」「生滅滅已(しよめつめつつい)」「寂滅爲樂(じゃくめついらく)」という四つの言葉を掲げていました。「雪山偈(せつせんげ)」というお釈迦さまの伝説に出て来る言葉で、「いろは歌」はこの言葉を解釈したものだといわれています。人が亡^なくなられたのだよ、あなたのいのちも同じですよ、大事になさいませよと、戒^{いまし}める意味もあるのでしょうか。

お盆が終わってもうすぐ秋のお彼岸です。お忙しいことでしょうが、諸^{しよぎょうむじょう}行無常を身を持って感じたときにあらためて、支えて下さっている周りの多くの方々のい

『禅のこころ-曹洞宗-』

のちも、自らのいのちもかけがえのない大切なものであるということに気づくことができるのです。

そして、日々の生活を^{かえり}省^{いかが}みては如何でしょうか？

— 終 —